

ユーザーの想いに応える 「しるしの価値」を提供し 新たな市場を創る

代表取締役社長 舟橋 正剛
Masayoshi Funahashi



シヤチハタは創業当初からモノを大切に、環境に配慮したモノづくりに取組んで参りました。

1925年（大正14年）の創業時に発売した「万年スタンプ台」は、長期間の使用を可能にするため、空気中の水分を吸収するインキを開発して作られました。また朱肉やXスタンパーも、インキを補充することで長期間繰り返しお使いいただける製品です。「使い捨てではないモノづくり」の精神は、今も全ての製品において受け継がれております。

さて世界では地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けた取り組みが進んでいます。2023年11月に開催されたCOP28では、パリ協定の1.5℃目標達成において、「2025年までに温室効果ガス排出量のピークアウトが必要」という認識がなされ、化石燃料からの脱却を加速させることが合意されました。日本も「2030年までの行動が決定的に重要」として、脱炭素化に向けた取り組みを促進する姿勢を示しています。

当社および関係会社でも、工場での太陽光発電の導入、再生可能エネルギーへの切替えなど、さまざまな「脱炭素」への施策を進めているところです。また製品のライフサイクル視点でのCO₂削減を目的としてバイオマスプラスチック材料の導入も進めています。

生物多様性保全として、環境省の自然共生サイトに設定された、稲沢市の「ビオトープながおか」の保全や、外来種の駆除を行っており、これらの活動が認められ「あいち生物多様性認証企業」に認証されました。

また産学官連携プロジェクトである「かがやけ☆あいちサステイナ研究所」に参画し、未来の愛知の担い手となる大学生がグローバルな視点を持って継続的にエコアクションができるようにサポートしています。

さらに環境負荷への対応として、廃棄物・水資源・化学物質の排出（PRTR対象物質）の削減を推進しております。また化学物質を取り扱うインキメーカーとして、法令や基準を守り、ステークホルダーの皆さまへの環境・安全を配慮した活動を今後も行ってまいります。これからも循環型社会の一員として、SDGs・社会貢献に向け、一層の努力をしてまいります。

商品の提供による社会への貢献と、環境への配慮による貢献。この2つを両輪とし、今後もシヤチハタは地球環境のために最善を尽くす循環パートナーとして長く続く関係構築をし、100年企業を目指して歩みを進めて参りますので、ご支援のほどお願い申し上げます。

シヤチハタは、社会課題を把握したうえで事業が社会に与える影響を評価し、「ステークホルダーの関心・影響」と、「シヤチハタにとっての重要性」の両面から重要な課題(マテリアリティ)を特定。それを環境の重点テーマとして整理し、戦略経営計画に反映しました。それぞれのテーマで目標を設定し取り組んでいます。

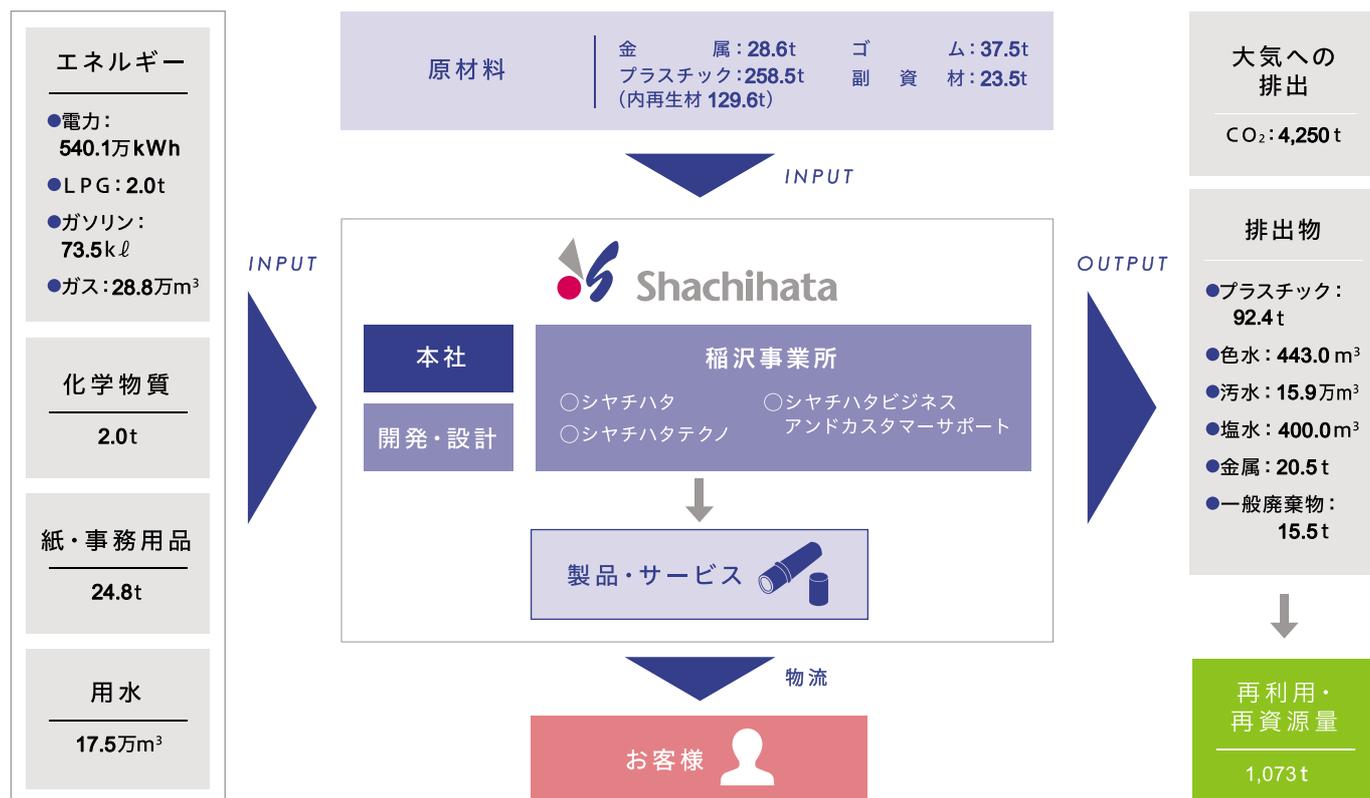
5つの環境重要課題

- 重要課題 01 | 地球環境問題を企業の社会的責務と認識し、低炭素社会づくりを目指す。
- 重要課題 02 | 環境に優しい負荷低減型の商品・サービスを提供することによって環境保全に貢献する。
- 重要課題 03 | 地球環境にとって最良の方法を追求し、ゼロエミッションを目指す。
- 重要課題 04 | 化学物質管理などを通じて環境と共生する。
- 重要課題 05 | お客様、サプライチェーン、社員から信頼される企業活動を展開する。

環境活動のハイライト

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
CO ₂ 排出量 (t)	5,019	4,867	4,651	4,643	4,250	
廃棄物総排出量 (t)	1,121	939	951	1,015	1,094	
廃棄物最終処分量 (t)	17	18	149	103	20	
廃棄物総リサイクル率 (一般廃棄物を含む) (%)	98	98	84	90	98	
再生材利用率	原材料プラスチック (%)	52	60	40	57	50
	洗浄用アルコール (%)	100	100	100	100	100
環境対応商品売上比率 (%)	56	38	44	40	40	
P R T R法対象 化学物質年間取扱量 (t)	エチレングリコールモノメチルエーテル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	エチレングリコールモノエチルエーテル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	キシレン	0,274	0.290	0.381	0.280	0.280

2023年度 シヤチハタのマテリアルバランス (INPUT・OUTPUT図)



集計範囲: 本社・稲沢事業所・各営業拠点・物流センター